

## 特定小電力トランシーバー FTH-314/-314L 取扱説明書

- 総務省技術基準適合品
  - 免許不要
  - 単3形電池 1本動作
  - 47チャンネル
  - 防水構造
  - 耐塵防噴霧形 IP65
  - 耐衝撃防落形 IP67
- 完全防水ではありませんので、水中での使用はできません。

お買い上げいただき、ありがとうございます。  
正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。  
お読みになった後は、大切に保管してください。  
このトランシーバーは国内専用モデルです。  
海外では使用できません。

販売元：八重洲無線株式会社 国内営業部  
開発製造：パーテックススタンダード LMR 合同会社



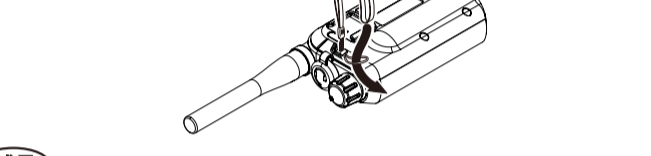
© 2017 パーテックススタンダード LMR 合同会社  
無断転載・複写を禁ず  
Printed in Philippines

### 付属品

- ご使用になる前に付属品をご確認ください。
- 取扱説明書 (本書)
  - 安全上のご注意 / 保証書

### ハンドストラップの取り付け

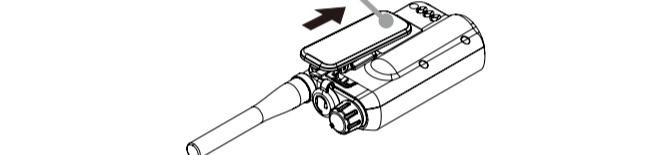
ハンドストラップは必要に応じて下記のように取り付けてください。



**補足** 丈夫な市販のハンドストラップを使用してください。

### ベルトクリップの取り付け

ベルトクリップをレールにあわせカチッと音がするまで、確実にスライドします。



**補足** ベルトクリップを外すときは、指を使わずにドライバー等でロックバーを上げながらスライドし外します。指を使うと爪を傷つけてケガの原因になることがあります。

### 電池の入れかた

- ロックバーを矢印方向にスライドし、ロックを解除してタを開けます。
  - オプションのニッケル水素電池 (FNB-135) または市販の単3形アルカリ乾電池をマイナス (-) から入れます。電池の極性 (+) (-) を注意してください。
  - フタを「カチッ」と音がするまで確実に押し込みロックします。
- 注意** 防水性能を維持するため、フタをロックする前に防水パッキンのキズ、劣化、外れ、汚れ等がないことを確認してください。

### バッテリーインジケータの設定

初期値は市販のアルカリ乾電池を使用する「AL」に設定されていますが、オプションのFNB-135を使用する場合は「nd」に設定します。

- [音量ツマミ] を左にまわしきり電源を切ります。
- [MODE] を押しながら [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れます。セットメニューの「cb-xx」が表示されます。
- [MODE] を押し、「bt-xx」を選択します。
- [▲] または [▼] を押し、使用する電池を選択します。アルカリ乾電池の場合：「AL」 FNB-135 の場合：「nd」
- [通話 (PTT)] を押しします。設定を確認し、セットメニューを終了します。

### 電池の使用時間と注意事項

電池の持続時間を延ばすには		
電池の種類	スーパーセーブ機能 OFF	スーパーセーブ機能 ON
単3形アルカリ乾電池 (日本製の場合)	約 30 時間	約 33 時間
ニッケル水素電池 (FNB-135)	約 33 時間	約 36 時間

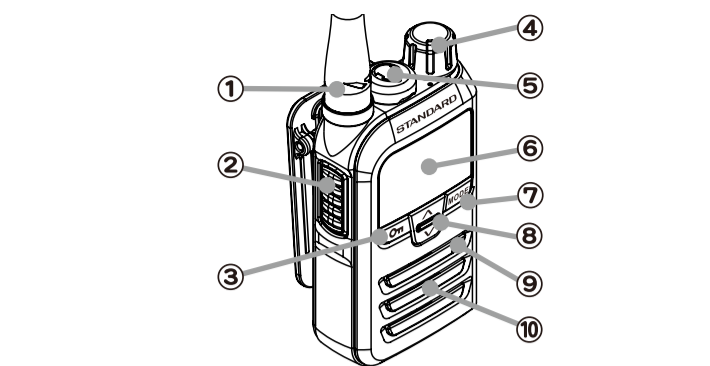
電池残量アイコン表示	
電池残量アイコン	説明
電池残量アイコン	まだ使えます。
電池残量アイコン	少なくなりました。
電池残量アイコン	残りわずかです。

電池を交換してください (FNB-135 はすぐに充電してください)。  
**補足** ○ 10 秒送信、10 秒受信、80 秒待ち受けの測定条件になります。上記の使用時間は目安ですので、実際に使用できる時間は、使い方や周囲の温度などによって異なります。  
 ○ スーパーセーブ機能を使用すると、受信中頭出しを繰り返すことがあります。

### 使用上の注意

- 市販の単3形アルカリ乾電池とオプションのニッケル水素電池 (FNB-135) について
- 使用せず保管しておくでなければならず電池の劣化が進みます。
  - 長時間使用しない場合は、ニッケル水素電池 (FNB-135) またはアルカリ乾電池を取り外してください。
  - ときどき電池ケースの蓋と電池の電極を乾いた布や綿棒で拭いてください。蓋子や電極が汚れていると、接触不良となり正しく使用できないばかりではなく、発熱・破裂などの原因になります。
  - 電池を交換するときは、電源を切ってください。
  - ニッケル水素電池 (FNB-135) または市販の単3形アルカリ乾電池以外の電池は絶対に使用しないでください。故障や火災の原因になります。
- オプションのニッケル水素電池 (FNB-135) について
- 当社指定以外の充電器や AC アダプターを使用しないでください。火災や故障の原因になります。
  - 初めて使用するとき、必ず充電してください。
  - 充電のしかたは、「急速充電器セット VAC-68」の取扱説明書をご覧ください。
  - 充電を繰り返すと使用できる時間が徐々に短くなります。
  - 長期保管した場合は電池容量が低下していることがあります。必ず充電してから使用してください。

## 各部の名前と機能



- アンテナ** 電波法上、取り外しができない構造になっています。
- 通話 (PTT) スイッチ** 押し続けている間は通話、放すと待ち受けの状態になります。
- ロックキー** 約 1 秒長押しするとキーロックが動作します。再度約 1 秒長押しするとキーロックを解除します。
- 電源スイッチ / 音量ツマミ** 右へまわすと電源が入り、更にまわすと音量の調節になります。カチッと音がするまで左へまわし切ると電源が切れます。
- MIC/SP 端子** オプションのスピーカー / マイクホンなどを接続する端子です。  
**注意** オプションを使用しないときに、キャップをしっかり付けると防水にはなりません。

## 基本的な通話のしかた (ノーマルモード)

本機には、周囲の状況に応じて選べる3つの通話方法 (ノーマルモード、グループモード、秘話モード) があります。通話のしかたはどのモードでも同じで、ここでは基本となるノーマルモードの通話方法を説明します。

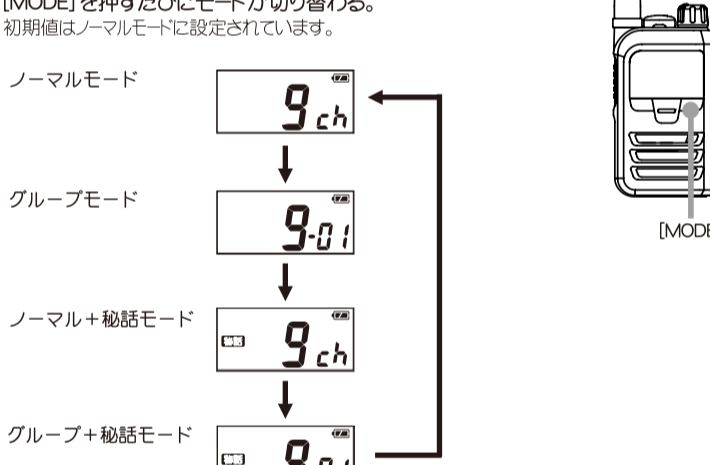
- 電源を入れる** [音量ツマミ] を右へまわす。「ピッ」と音が鳴ります。
- チャンネルをあわせる** [▲] または [▼] を押し、相手と同じチャンネルにする。
- 音量を調節する** [音量ツマミ] を 12 時の位置にあわせ、相手の音を受信しているときに音量を調節する。
- 押しながら話す** [通話 (PTT)] を押しながらマイクに向かって話す。  
・ [通話 (PTT)] を押し「ピッ」と音が鳴り、ディスプレイに「E」や「通話」が点灯してから話してください。  
・ [通話 (PTT)] を放すと、待ち受け状態になり相手の音声を聞くことができます。

### 通話モードの切り替えかた

通話を行うモード (通話モード) として、次の3通りの方法があります。周囲の状況に応じて使い分けてください。

- ノーマルモード
  - 他のグループの通話が聞こえる心配がないとき。
- グループモード
  - 他のグループの通話が聞こえたいとき。
  - チャンネル番号とグループコードが一致すると通話ができます。
- 秘話モード
  - 他の人に通話を聞かれないとき。

### 通話モードを切り替える

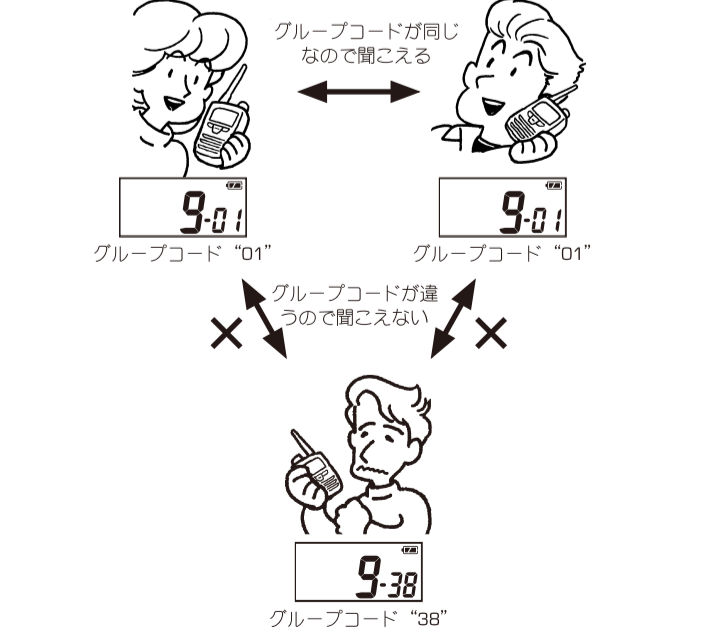


### 一時的にモニターをする

- スケルチ機能を OFF にして、受信信号の状態を一時的にモニターする機能です。
- **モニターにする**
    - [音量ツマミ] を左にまわしきり、電源を切ります。
    - [▼] を押しながら [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れます。
  - **モニターを解除する** 一度電源を切り、再度 [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れます。

## グループモード

「同じチャンネルで、他のグループの通話が聞こえてわずらわしい」そんな時に、あらかじめ同じグループコードに設定しておく仲間同士の音声だけが聞こえます。



### 設定のしかた

- [MODE] を押しグループモードにします。現在設定しているグループコードが表示されます。
- [MODE] を押しながら [▲] を押し、グループコードが点滅します。
- [▲] または [▼] を押しグループコードを選びます。GP-01 ~ GP-47 (47 種類) から選択します。

### ⑥ ディスプレイ



- |   |   |
|---|---|
| <b>A.</b> コールバック使用時に表示<br>OK... 通話可能<br>圏外... 通話不可能 | <b>F.</b> 電池残量表示                              |
| <b>B.</b> 送信時に表示                                    | <b>G.</b> オートパワーセーブ表示<br>オートパワーセーブを ON にすると表示 |
| <b>C.</b> 受信時に表示                                    | <b>H.</b> 秘話モード時に表示                           |
| <b>D.</b> ロック表示                                     | <b>I.</b> 通話中表示                               |
| <b>E.</b> キーをロックしたときに表示                             | <b>J.</b> チャンネル番号表示                           |
| <b>L.</b> 中継チャンネル時に表示                               | <b>K.</b> セットメニューの表示                          |
|   | <b>L.</b> グループコード表示                           |

- MODE キー** 押すたびに通話モードが切り替わります。
- ▲ (アップ) / ▼ (ダウン) キー** 押すたびにチャンネルがアップ / ダウンします。
- マイク**
- スピーカー**

### 補足

- [▲] または [▼] を押すと、チャンネルは下記のように変わります。  
1-2-3-4-5-6-7-8-9-01-02 / 10-09-08-07-06-05-04-03
- 電源を入れるとディスプレイに「Er」(エラー) が表示された場合は、外部マイクホンが「正しく接続されていない」または「スピーカー (イヤホン) が断線している」可能性があります。  
通話する前に「接続したスピーカーマイクホンやタイピンマイクのねじ込み式プラグが確実に締め付けてあるか」または「スピーカー (イヤホン) が断線していないか」点検してください (セットメニュー SP-xx 参照)。
- 相手の声が途切れて聞こえるときは、モニター機能を使用すると途切れなく聞けます (一時的にモニターをする) 参照。
- 連続して通話できる時間は3分以内で、その間ディスプレイに「通話」が点灯します。3分間連続して通話し続けると、送信は自動的に停止します。なお、送信が停止する 30 秒前になると、ディスプレイに数字でカウントダウンが表示され、送信が停止する 10 秒前には、「ピッ」と音が鳴ります。また、送信が停止した場合、その後の2秒間は [通話 (PTT)] を押しても「ブープブープ」と警告音が鳴り送信できません。
- 他局の信号を受信しているときは、送信できません。ディスプレイに「受信」が点灯し、[通話 (PTT)] を押しても「ブープブープ...」と警告音が鳴り送信できません。ただし、「通話」が点灯している間に [通話 (PTT)] を押しると送信します。

### キーをロックする

誤ってキー ([▲], [▼], [MODE]) に触れなくても設定が変わらない、さらにディスプレイの表示をしない設定にすることができます。  
※: 電池残量アイコンは表示されません。

### キーロックする

- [On] を約 1 秒以上押しします。「ピッ」と鳴ってキーがロックされ、「On」が点灯します。
- **キーロックを解除する** 再度 [On] を約 1 秒以上押しします。「ブツ」と鳴ってキーのロックが解除され、「On」が消えます。

### 補足

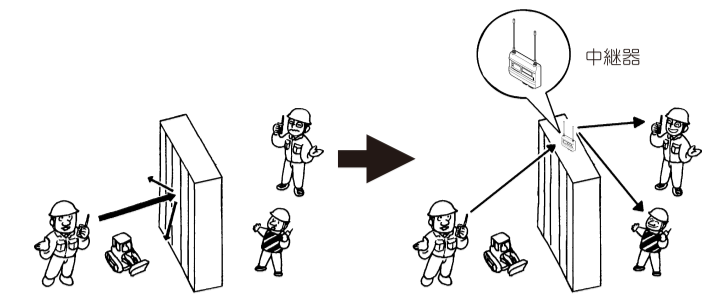
- セットメニューの「hd-xx」を「ON」に設定すると、[On] キーを約 1 秒以上押ししたときに、キーロックと共にディスプレイを非表示にすることができます。
- ① [音量ツマミ] を左にまわしきり電源を切ります。
- ② [MODE] を押しながら [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れます。セットメニューの「cb-xx」が表示されます。
- ③ [MODE] を押し、「hd-xx」を選択します。
- ④ [▲] または [▼] を押し、「ON」を選択します。
- ⑤ [通話 (PTT)] を押しします。設定を確認し、セットメニューを終了します。

### キーロック及びディスプレイを非表示にする

- セットメニューの「hd-xx」を設定しなくても、下記の方法でキーロックとディスプレイを非表示にすることができます。
- [音量ツマミ] を左にまわしきり電源を切ります。
  - [On] を押しながら [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れます。「On」が点灯してキーがロックされ、約 2 秒後にディスプレイの表示が消えます。
- **キーロックとディスプレイ非表示を解除する** 再度 [On] を約 1 秒以上押しします。「ブツ」と鳴ってキーのロックが解除されて「On」が消え、ディスプレイが表示されます。
- 補足** 電源を切っても、キーロックとディスプレイ非表示を解除することができます。

## 中継機能 ~通話距離をのばすには~

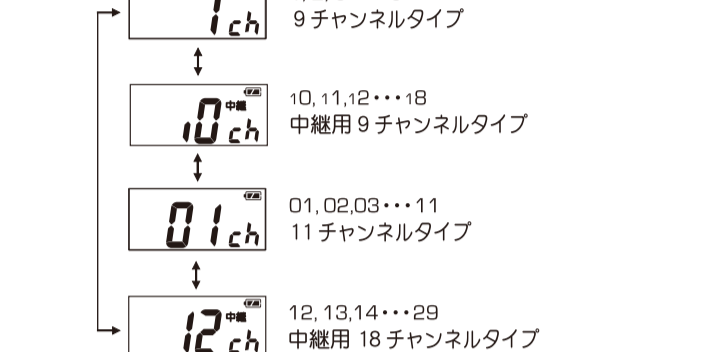
途中にビルなどの障害物がある場合や、相手との距離が離れた場合には、電波が届かずに通話できないときは、当社対応の中継器を中間点に設置することにより、交信範囲が広がります。なお中継器の詳細については、お買い上げいただきました販売店または八重洲無線株式会社国内営業部にお問い合わせください。



- 注意** 中継器を介した場合は、下記の機能を使用することができません。  
 ・ コールバック機能  
 ・ セール機能  
 ・ オートチャンネルセレクト機能  
 ・ クロム機能

### 中継機能を設定する

- 下記の操作を行うと、中継機能用のチャンネル (合計 27 チャンネル) が追加されます。中継機能用のチャンネルが追加されます。
- [音量ツマミ] を左にまわしきり、電源を入れます。
  - [▲] を押しながら [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れます。中継機能用のチャンネルが追加されます。
  - [▲] または [▼] を押すたびに、チャンネル番号が変わります。



### 設定を解除する

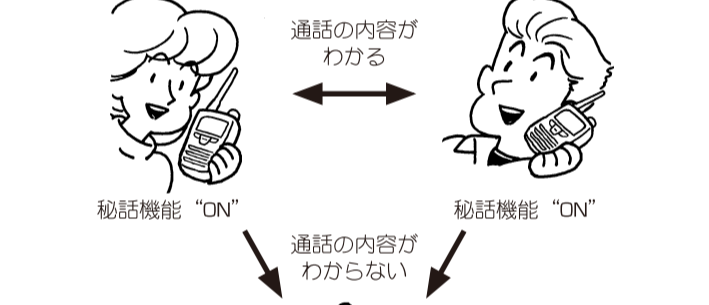
- [音量ツマミ] を左にまわしきり電源を切ります。
- [▲] を押しながら [音量ツマミ] を右にまわし、電源を入れます。

### 通話のしかた

- [▲] または [▼] を押し、中継用チャンネルの中で中継器と同じチャンネル番号にあわせませ。
  - 「基本的な通話のしかた」と同様に通話します。
- 補足**
- グループモードを使用することができます (中継器と同じグループコードにあわせさせてください)。
  - [通話 (PTT)] を押し「ピッ」と音が鳴り、ディスプレイに「通話」が点灯します。「通話」が点灯中に話をする、お互いの音が途切れず交信することができます。交信中「通話」が消灯したら、再度 [通話 (PTT)] を押し「通話」が点灯してから話してください。
  - 当社指定の中継器のみ使用可能です。

## 秘話モード

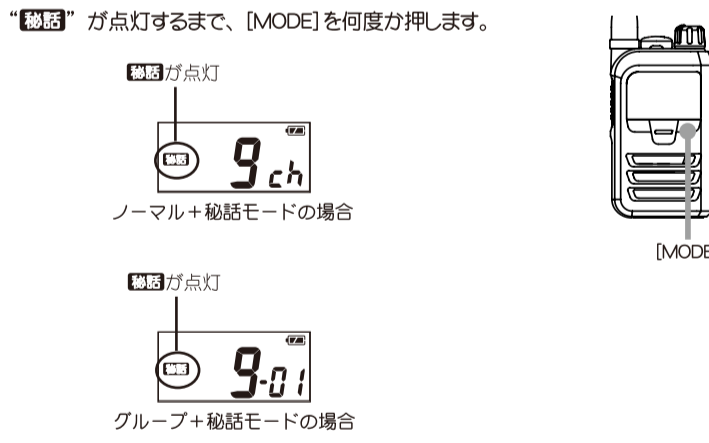
秘話モードに設定していない人は、通話内容を聞き取れなくなります。秘話モードは、ノーマルモード、グループモードのどちらでも使用することができます。



### 補足

- 仲間同士以外でも、同じチャンネルで秘話機能を動作させていれば、通話内容を聞かれる場合がありますので、重要な内容の交信は控えるようにしてください。
- 秘話機能付トランシーバーでも、機種が違うと、交信できない場合があります。
- FTH-314/-314L 以外のトランシーバーと通話すると、音色が異なる場合があります。

### 秘話モードに切り替える



### 通話のしかた

「基本的な通話のしかた」と同様に行います。

